

第4回市民公開講座 がんフォーラム（8月6日、シーハットおおむら）

「大腸がん」これを知るときや、ダイチョウぶ に参加して

国病久原会 OB 連絡会 代表 出口八重子

毎年の恒例行事となった「がんフォーラム」に参加しました。

連日の猛暑日にもかかわらず、会場はほぼ満席、人々の関心の高さを
伺い知ることができました。



多数の聴衆で溢れる会場光景

以下、各講演の要旨をまとめてみました。

「診断と内視鏡治療について」 消化器医長 西山 仁 先生

大腸がんは急速に増え続け、女性のがんの第一位となり、最近は治る段階で発見される人が増えている。

なぜ、がんになるのか原因は判っておらず、予防も難しいが、近年、内視鏡での治療が日々進歩しており、検診で早期にがんが見つければ内視鏡治療が可能で、体への負担も少ない治療法といえる。

「最近の外科治療の進歩」 外科医長 竹下浩明 先生

結腸癌の8～9割は腹腔鏡手術が可能で、開腹手術より安全であり、再発率においても差がない。外科手術は進歩しており、身体の負担を少なくしながら様々な部位において治療を選択し、治癒を目指して集学的治療を行っている。

「最近の抗がん剤治療について」 外科化学療法副センター長

牧山 純也 先生

がん薬物療法の専門医として抗がん剤治療の化学療法、分子標的治療、ホルモン療法などを紹介された。

外来化学療法が増えている中で、抗がん剤の副作用を懸念しがちだが、抗がん剤の正しい情報をもとに安心して治療が受けられる。また、副作用の少ない、自分に合った治療によりがんの完治率を高めることにつながる。

特別講演:「在宅医療について」大村市医師会副会長 山下直弘 先生

平成12年度の病院死は76.4%である。しかし、在宅を希望する人は6割である。

大村市は今年、〈まちなかサポートセンター〉を旧浜屋デパートあとに開設し、登録患者を軸に退院調整、療養生活支援、24時間対応コールセンター、在宅での看取り、を実施している。

また、かかりつけ医を持つ働きかけも行っている。豊かな人生を送るための自分の意思を家族などに伝えたい人はアドバンス・ケア・プランニングの準備が必要である。

幅広い夫々の専門医からの講演は実に明快で分かり易い内容でした。改めて、がんを早期に発見できれば、より体に負担の少ない治療を選択できることが理解できました。

現在、2 人に 1 人が癌になり、3 人に 1 人ががんで死亡するといわれております。高齢社会を如何に生き抜くか、ひとりひとりが、今の医学知識を吸収して、賢明な人生設計をたてるべきだと思います。このような市民講座を企画運営し、広く市民に親しむ機会を与えて下さった、当センタースタッフに敬意を表したいと存じます。また、大村市医師会副会長の山下先生、在宅での看取りという、人生終焉の選択肢があることも教えて頂き、ありがとうございました。